

## 地域を守る消防団、新体制始動

令和8年度益城町消防団任命式、新班長・新入団員訓練

令和8年度益城町消防団任命式が4月5日、町役場で行われ、島崎彰久団長が新班長32人、新入団員15人に任命書を交付しました。

新入団員を代表して宣誓を行った岩本大志さんは、「熊本地震から10年。当時はなにもできなかったけど、今後同じような災害が起きたら、最前線で役に立ちたい」と意気込みを述べました。

式終了後、益城西原消防署で消防署員の指導の下、基本動作やホース延長の訓練などが実施されました。



消防署員の熱心な指導の下、懸命に取り組む新入団員

## 町を一望できる赤井の名所が再建

赤井城跡 災害復旧工事竣工式

熊本地震により被災した赤井城跡の災害復旧工事竣工式が3月27日に行われました。赤井川左岸に位置する赤井城跡は、天文16(1547)年に木山城主により築城された木山城の支城。本丸跡に隣接して木山神宮末社「日枝神社」が祭られています。今回、地元住民の寄付や協力などにより、神社鳥居や石垣を再建しました。

式典には地元住民約30人が参加。木山神宮・櫛宜の矢田幸貴さんによる神事が執り行われ、桜咲く地域の憩いの場の再建をみんなで祝いました。



⑤再建した神社鳥居と石垣 ⑥厳かに執り行われた神事



## あの日から10年 それぞれの祈り

町内各地で追悼行事・復興イベント開催

熊本地震から10年の節目を迎え、4月12日から16日にかけて、さまざまな関連行事が町内各地で執り行われました。

12日には、「平成28年熊本地震益城町追悼式」を町文化会館で挙行。遺族を代表して松野良子さん(市ノ後)が祭壇に追悼の言葉を述べ、参列した人々も花を手向け、犠牲者の冥福を祈りました。

14日は、震災記念公園のモニュメントに献花台が設置され、多くの方が献花に訪れました。午後からは、町民が立ち並ぶ竹灯籠の中で祈りをささげる「4.14のつどい」が開かれました。町造園建設業協会や中学生を含むボランティアの皆さんが制作した竹灯籠に点火。明かりがともされた竹灯籠には「益城町が愛される町に」といった町への思いや復興・追悼のメッセージが添えてあり、一つ一つに願いが込められていました。

竹灯籠の制作から参加したきょうだいは、自ら作った竹灯籠に火をともし、「作るのはとても大変だったけど、参加してよかったです」と話してくれました。

①遺族を代表して犠牲者に追悼する松野さん ②祭壇に献花し、それぞれの祈りをささげる人々 ③亡くなられた方々へ、追悼の黙とう ④きょうだいで一緒に竹灯籠に点火 ⑤竹灯籠には、復興への思いやそれぞれの願いが刻まれていた



愛称を発表する西村町長と西代表取締役社長。町総合運動公園の愛称は「ユナイテッドトヨタ キズナパーク益城」

## 『キズナ』を深める公共施設

益城町総合運動公園ネーミングライツ契約締結式

町は3月27日、ユナイテッドトヨタ熊本株式会社(熊本市)とネーミングライツ契約を結び、町総合運動公園と公園内施設の愛称※が決定しました。

ネーミングライツとは、町施設に愛称を付ける権利を事業者へ与え、その対価として契約料などを得る制度。

同社の西治三朗代表取締役社長は、「『キズナ』という愛称に込められた通り、世代を超えてキズナパーク益城に集い、交流を通じて絆を深めてほしい」と語りました。※愛称は、本紙令和8年4月号に掲載しています。

## 益城町を多方面から支援

企業版ふるさと納税感謝状贈呈式

3月25日、町は企業版ふるさと納税により寄付を頂いた2社にそれぞれ感謝状を贈りました。

益城町に熊本本部を持つ生活協同組合くまもとは、熊本地震直後から被災地支援を継続しています。寄付は復興推進プロジェクトに賛同したもので、熊本地震10年事業などに活用されます。同社の嶋田誠代表理事は、「復興まちづくりのさらなる一助になれば」と語りました。

株式会社JCUは、益城町のくまもと臨空テクノパークに熊本事業所を竣工し、令和8年度から操業開始予定。寄付は住環境・公共交通整備推進プロジェクトに賛同したもので、公共交通の充実などに活用されます。同社の池側浩文常務取締役は、「新しい事業所と共に益城町の発展に末永く貢献できたら」と語りました。

写真/西村町長から感謝状を受け取った④生活協同組合くまもと嶋田代表理事、⑤株式会社JCU池側常務取締役



Pickup Plus  
今月のプラス



新しい下水道デザインマンホールを設置しました！デザインコンテスト一般の部と中学生以下の部それぞれの最優秀作品を採用した2種類のマンホールを、県道熊本高森線歩道(福富～惣領区間)の計10カ所に設置。街歩きをしながらぜひ探してみてください。